

マーサージャパン株式会社
今井 俊夫

第6回「長期投資と投機」

「長期投資と投機」

新型コロナウイルスの感染範囲が急速に拡大したことを受けて、株価は国内外で暴落しました。基金では積立資産を国内外の株式にも投資していますから、暴落の影響を受けています。その一方で感染予防のためのマスクは入手困難な状況となり、この機に乗じてマスクを買い占めたり、それを高値で売りつけようとしたりする業者の存在が問題になったと聞きます。倫理的な問題を別にしたとき、基金は株式ではなく、マスクの価格上昇を見込んで、マスクに投資しておくべきだったでしょうか。

マスクが品薄になる状況をとっても想定できなかった、という説明がマスクに投資しなかった理由として考えられますが、では、基金が株式に投資しているのは、株式が品薄になりその結果価格が上昇することを見込んでいたためかという、そうではありません。基金が株式に投資するのは、企業利益の分配を受けるためです。実際、株式を保有していると、配当金という形で定期的に利益の分配を受けることができます。このようにして受け取る分配は、同じ金額を債券に投資して受け取る利金より「割がいいはず」と考えるため、株式に投資しています。株価の上昇は投資の必要条件ではないのです。

もちろん株価の下落は困ります。株価が下落するのは、思ったほど利益が出ないことが明らかになるにつれ「割に合わなく」なるためです。しかしいずれウイルスの問題が終息し、以前の利益水準を取り戻すのであれば、それは一時的な損失であって過度な心配は不要ですし、長期に投資成果を考えることのできる投資家にとってはむしろ株数を増やすチャンスかもしれません。また以前の利益水準に回復しないまでも、安い株価に対しては「割りがよく」なっているかもしれません。

需給変化に伴う価格差を取りに行こうとする売買行動を投機と呼んで区別することがありますが、投機ではなく、利益分配を受けることを目的とした投資を長期的視野で考えることのできる基金は、短期的な市場価格の変動に過度にとらわれる必要はありません。特定の銘柄に投資しているわけではなく、広く分散投資されている点もこの点を補強しています。